

西光寺だより

第二五号 令和三年 一月一日発行

新年明けましておめでとございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

二〇二一年、新しい年がはじまりました。例年でありましたら、一月一日、皆さんと西光寺での一年最初の行事である元旦会法要を厳修する予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の広がりを鑑み中止と致しました。今までは違う元旦会。一人で本堂にお参りするとき、それを新鮮な気持ちで二〇二一年の元旦会ができなかったことを忘れぬようにと受け止めながらのお勤めであります。

昨年の世相を表す漢字は『密』でありました。新型コロナウイルス感染症を避けるための密閉・密集・密接の三密を思い出しますが、見方を変えらるといつでもそばにいる仏さまの存在を忘れてはならないと受け止めるとき、『密』な存在を改めて感じることであります。そういう意味では、私たちと仏さまの間にはどんなに近くで見守っていただいても安心の『密』であります。

皆さんの一文字は何だったでしょう。ちなみに私は『初』です。なにもかも初めてのことで、新型コロナウイルスの出現により、今までにない生活様式、日々手の消毒や外出するたびにマスク生活、ソーシャルディスタンスを保つためのアクリル板での会話や食事、テレビなどで見る日々の感染者数の発表や医療現場のひっ迫等…。

さらに西光寺での法要の中止や短縮。初めての経験でありました。何もかも、今までとは違う初めての日常生活の一年でありました。

ただ変わらない思いは、本年もご縁のあるすべての人と共に過ごし、常に見守って下さっているご先祖様を通して、仏さまを身近に感じながら、精進してまいりたい、ということであります。

そして、本年もこれまでの一年ではなく、目まぐるしく世界は変わり、その変化に向き合わなければならぬ年となるでしょう。だからこそ過去のことを生き方の経験と位置づけ、その経験を糧に、それぞれの人生、いのち輝かせていきたいと思うことであります。

今年も例年のように行事・法要を行うことが困難になるかもしれません。短縮や中止などその時の状況を把握し、総代様・茨木東組寺院の意見を聞きながら進めていきたいと思えます。ご迷惑ご不便おかけ致しますが、皆さん本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

合掌

◆先月の報告◆

十二月三十一日（木）西光寺鐘楼にて除夜の鐘を撞きました。感染予防を行いながら一年の様々な出来事や自分への思いを感じながら締めくくりとして撞いたことであります。その後、本堂にて阿弥陀さまへの感謝を思いお焼香をいたしました。

昨年は大変な一年でありました。まだまだ収束が見えない状況であります。一年が終わるといふことにしっかり向き合うからこそ、新たな一年を迎えることができる。その大切な時間を過ごしたことであります。

“ 世の中 安穏なれ ”

